

# 「エンゼルケア充実のために」

平成 25 年 8 月 9 日 17:30~19:00 クオラホール

講師 小林光恵先生



小林光恵先生との出会いは6年前、当グループで“エンゼルケア”を始めるにあたり、「ケアとしての死化粧～エンゼルメイクかみえてくる最期のケア」というテーマで研修会を企画、小林先生がエンゼルケアを始めたきっかけや思い、具体的なエンゼルメイクの手順等を教えていただきました。

あれから6年、グループ内の各施設で最期のケアとしての“エンゼルケア”は定着してきました。“死後の処置”としてケアを行っていた時と比べると、最期のケアに込める想いは深くなっていると思います。そこで、もっと最期のケアを良くしたいという思いで、今回「エンゼルケア充実のために」という研修会を開催しました。

当日は、グループ内の看護師・介護士の他にもケアマネジャーやリハセラピストも参加し、また、病院・施設から最期のケアを引き継ぐ地元の葬儀社の方にも参加していただきました。

講演冒頭で、「エンゼルケアは“亡くなった人のセルフケアの代理”が目的で、エンゼルメイクの意味は看取りの手段である。亡くなった人のことをあれこれと考え、思いを馳せ、触れて、見て、臨終後の時間を過ごすことに大きな意味がある。」と穏やかな口調で話された時は、本当にその通りだと胸が熱くなりました。また、“エンゼルメイクのちから”について、亡くなった方とご家族の最後のコミュニケーションの場であり、ご家族の感情が表出できる場であると言われた。最後のコミュニケーションの場を提供するのも私たちの役目です。最愛の人を亡くしたご家族と患者が共に最期の時間を過ごす、これまでの関わりを思い出しながら安らかにお眠り下さいという気持ちをこめて“処置”ではない最期のケアを共に行なう。その時間を今まで以上に大切にしていきたいと思いました。

これまで出会った方々をしみじみと思い出し、感謝の念を抱きつつ今回の研修会を終えました。